

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズきんじょう			
○保護者評価実施期間	令和8年1月20日		～	令和8年2月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数)	20名
○従業者評価実施期間	令和8年1月20日		～	令和8年2月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月6日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	PDCAサイクルを意識した業務(会議や話し合いの設定)が定着し、活動や支援の充実に繋がっている。	計画性を持って業務や支援に取り組めるよう、週間、月間、年間の予定表を作成している。休みなどで話し合いに参加出来なかった職員にも話し合った内容を共有する為に、引継ぎノートを活用している。	改めて、PDCAと各会議、話し合いの趣旨を職員間で共有する機会を作る。些細なことであっても、気になる事があれば職員間で話し合いを行い、1人で抱え込む事のないよう、みんなで考えていく。
2	誰が見ても分かりやすく構造化され、子ども達の活動に合わせた環境になっている。 また、清潔で心地よく過ごせる環境になっている。	イラストや写真を用いて、1日に流れ送迎、保護者のお迎えについて伝えている。 活動空間の毎日の清掃はもちろん、定期的に玩具や子どもたちが触れる場所の消毒を行っている。	障害特性等に応じた個々の支援を積極的に行なっていく。 これまで以上に、年齢や個々の能力にあった遊びや活動を提供できるようにしていく。
3	多機能型(放課後デイ、生活介護、相談支援、グループホーム、短期入所)で事業を実施している。	施設内研修を多機能事業所全体で行う事で、他事業職員との意見交換等の機会を作っている。また、外部講師も招く事もしている。 児童の時期から短期入所を利用したり、生活介護事業と合同で行事を行うことで将来を見据えた支援を行っている。	各事業単位の会議や話し合いに、他事業の職員が参加する事で活性化を図る。 グループホームや短期入所のスペースを定期的に見学し、緊急時でも安心して利用できるようにする。 個別活動などで生活介護で行っている作業等を体験する機会を設け、卒業後の進路に向けた支援を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	今年度、子どもの連絡帳や配布物の入れ間違いや、持たせ忘れが何度もあり、ミスを防ぐための確認方法や職員間でもチェック体制が不十分な事がある。	連絡帳や配布物の確認が十分でなかったことや、職員間での最終確認が徹底されていなかった。	職員一人ひとりが確認の重要性を再確認し、声掛けやダブルチェックを行うなど、職員間で連携しながらミスの防止に努める必要がある。
2	消防計画、BCP計画、児童安全計画、各種マニュアルは作成済みで、各種訓練などは実施しているが、保護者への周知や説明、発信などが不十分。 また、避難訓練等は定期的に行っているが、本番を想定した緊張感のある訓練が十分にできているとは言えない。	保護者への周知や説明、発信の必要性に関する職員間の共有が不十分だった。 訓練が流れに沿った実施になりやすく、実際の状況を具体的に想定した行動や職員一人ひとりの危機意識を高める機会が不十分だった。	契約時や面談時に直接お伝えするとともに、事業所の通信やホームページを活用し積極的に周知・発信したり、随時口頭でも伝えていく必要がある。 様々な状況を想定した訓練内容を取り入れ、職員間での振り返りや共有を行いながら実際の災害時にも落ち着いて対応できるよう防災意識の向上に努める必要がある。
3			